

文部科学省委託事業

令和4年度 幼児教育における人材確保・キャリアアップ支援事業

令和5年度 大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業

幼稚園教諭の資質向上を目指すキャリアステージ における講座の在り方の研究Ⅱ －幼児教育コーディネータの資質能力の検討－

齋藤陽子・久世均・眞喜志悦子（岐阜女子大学）

岐阜女子大学

本日の内容

内 容

1. 幼稚園教諭の資質向上を目指すキャリアステージにおける講座
実施目的・概要
2. 幼児教育コーディネータとは
3. 幼稚園教諭の資質向上を目指すキャリアステージにおける講座
幼児教育コーディネータの資質能力 評価
4. 成果
5. 今後に向けて

実施目的・概要

実施目的・概要

<実施事業>

新たな教師の学びの姿を実現するための質の高い効果的な免許法認定講習等の開発・実施

<実施期間>

令和4年5月20日～令和5年3月31日

令和5年6月 9日～令和6年3月31日

<事業内容>

- ・免許法認定講習等の開発・実施
- ・新たな教師の学び（オンライン等）の開発

実施目的・概要

実施目的・概要

＜事業内容＞

- ・免許法認定講習等の開発・実施
- ・新たな教師の学び（オンライン等）の開発



実務年数12年以上の幼稚園教諭の新たなキャリアとして目指す「幼児教育コーディネータ」を養成し、2種免許状保有者の専門性の向上を図り、上進を推進する。

- ①自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計
- ②キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化
- ③幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラム構造化と内容の精選
- ④「幼児教育コーディネータ養成講座」の実施（幼稚園教諭2種免許状から1種免許状に上進する認定講座の開設）

実施概要

実施概要

- ①自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計
- ④「幼児教育コーディネータ養成講座」の実施
(幼稚園教諭2種免許状から1種免許状に上進する認定講座の開設)

幼稚園教諭2種免許状から1種免許状への上進のための、文部科学省認定公開講座を開講

＜開設科目＞

Nº	教育職員免許法 施行規則に定める 科目区分等	科目名	単位数	R4年度 受講者数 (人)	R5年度 受講者数 (人)
A・B	領域及び保育内容の指導法 に関する科目	遊びと文化Ⅰ・Ⅱ	2	34	32
C		保育内容(表現)	2	34	32
D	教育の基礎的理解に関する 科目	教師論	2	34	32
E	道徳、総合的な学習の時間 等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目	教育の方法・技術	2	34	32
F・G		幼児理解・教育相談Ⅰ	2	34	32

実施概要

実施概要

- ①自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計
④「幼児教育コーディネータ養成講座」の実施
(幼稚園教諭2種免許状から1種免許状に上進する認定講座の開設)

＜開設科目＞

※日程はR4年度

	第1期	第2期
申込期間（必着）	5月23日～6月10日	7月11日～7月29日
受講料振込期間	受講確認票到着後 6月24日	受講確認票到着後 ～8月10日
受講許可書・教材・ 履修証明プログラム 申請用紙発送	振込確認後 ～7月8日	振込確認後 ～9月2日
スタートアップ オンライン講座	7月16日 又は 7月17日	9月10日 又は 9月11日
講習受講期間	7月17日～10月17日	9月11日～12月11日
修了認定試験	10月17日～10月30日	12月11日～12月24日
履修証明プログラム 申請用紙提出〆切	10月30日迄に事務局へ必着 (印刷物を郵送にて提出)	12月24日迄に事務局へ必着 (印刷物を郵送にて提出)
修了認定	採点終了後 判定会議	採点終了後 判定会議
履修証明書発送	12月中旬頃発送予定	2月初旬頃発送予定

実施概要

実施概要

- ①自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計
- ③幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラム構造化と内容の精選

対面とe-Learningを活用した学びとを組み合わせた
「ハイブリット型講座」の実施

対面での授業の実施 + e-Learning（テキストと動画教材）の実施



対面授業（zoomによる実施）



e-Learning
(テキストと
動画教材開発)

2. 教育相談Ⅰの概要と各講の概略

【I. 学修の概要】

教育相談や発達相談、子育て支援を行う意義について理解し、教育相談を推進することができるような組織づくりや計画・評価について考える。

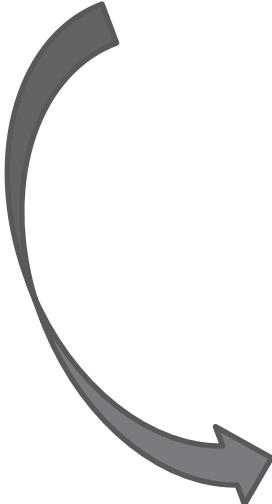
また、保護者の子育て相談などにあたる心得や態度について理解を深め、幼児が抱える課題に対して、個に応じた支援及び環境調整への配慮を考える。

実際の様子へ

実施概要

実施概要

①自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計



学習内容の基礎
や発展のための
情報
= 教育リソース

<テキスト>

第1講 小中連携教育に関する社会的背景

【学習到達目標】

- ・小中連携教育に関する社会的な課題について説明できる。
- ・小学校教育に求められる専門性について具体的例を示して説明できる。
- ・小学校と中学校の学得状況の在り方について説明できる。

1. 小中連携教育に関する社会的な課題

小中連携教育については、これまで全国的な取り組みや支援の在り方等に関する検討はなされていない。児童が、小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活へ羽ばたけるか、不登校等が問題になりたりする中で中1ギャップが問題化されている。各種調査によれば、「授業の難易度」「学校の楽しさ」「教科や活動の時間の不向き」について、中学生になるに当たる生徒がする行動の割合が下がる面があることや、「学習上の懸念」として「上手な勉強の方法がわからない」と回答する児童生徒数は、算用教科の削減現象を数え、いじめなどの事件も、不登校や児童生徒が中学校1年生になったときに人権に問題ある現象がちりばめられている。

幼小接続については、平成22年に「幼小接続の教育と小学校教育の接続強度を在り方にに関する調査研究推進者会議」の推薦がなされており、そこでは、幼小接続の教育と小学校教育は教育の目標を「学びの基礎力の育成」として統一して「その教科の理解と見通すこと」が必要といった、両者の関係を「連携性・一貫性」で捉える考え方が示された。

そのため、木学としては令和4年度(2022)より「幼小接続コーディネーター養成カリキュラム」を開設し、講座を開催しているところである。

また、中高一貫教育については、子供たちや保護者などの選択の幅を広げ、学校制度の複雑化を進めめる観点から、牛乳の個体や部位を購入することを目的として、平成11年度の「第一回教育制度が選択的に導入され、平成23年に文部科学省において当該制度の成果と課題について検討を行った」中高一貫教育が今後とも特徴ある教育を展開することを目的とした、教科書の新規の充実が図られることとされる。

小中連携教育、一貫教育に取り組む学校、市町村においては、小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活へ羽ばたける課題で、不登校や中学校上の問題につながっている事例等(いわゆる中1ギャップ)に直面し、小学校から中学校への接続を円滑化する必要



性を認識し、小中連携教育、一貫教育に取り組みがてのケースが見られる。特に、学校間の連携・協議に関する現状と議論空間においても多くの取り組みがあり、界隈半径の範囲が卓犖していることを踏まえ、小学校高学年から中学校入学後までの期間に着目し、当該期間に重点的に取組を行う例が見られる。

小川地区、一貫教育に取り組み始めて接続しやすい中1ギャップに直面したことであったとしても、学校、小町村においては、それぞれの実情にあわせての目的を明確化するとともに関係者で共有し、学校全体で連携的に取り組りことで、小川一貫教育の成果を上げることが期待される。

2. 小中連携教員の担当向上

令和3年1月26日中央教育審議会の「令和の日本型学校教育」の草案を目指して~全との子供たちの可能性を引き出す、個別最適が学びと、協働が学びの実現へ(答申)において次のような趣旨がされている。

(1) 2020年代を追して実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿 【教職員の姿】

- ・教職員が教員の育成や新たな一人一人など学校教育を取り巻く環境の変化を前にして受け止め、教職生涯を深めながら自己成長が実現されることとともに、教員と、経営・財務等に係る専門職である事務職員、それぞれの分野で教職員が専門性を有する多様な外部人材や専門スタッフ等がチームとなり、個々の教職員がチームの一員として組織的・協働的に取り組む力を発揮しつつ、校長のリーダーシップの下、家庭や地域社会と連携しながら、共通の学校教育目標に向かって学校が運営されている。

- ・教員質問、探求、発見の精神をも含めた才覚を活用し、多様な人材の教育界内外からの参画や教員の国際・能力の向上により、質の高い連携が実現されることとともに、教員と、経営・財務等に係る専門職である事務職員、それぞれの分野で教職員が専門性を有する多様な外部人材や専門スタッフ等がチームとなり、個々の教職員がチームの一員として組織的・協働的に取り組む力を発揮しつつ、校長のリーダーシップの下、家庭や地域社会と連携しながら、共通の学校教育目標に向かって学校が運営されている。

- ・さらに、学校における働きが改革の実現や教職の魅力の発信、新時代の学びを支える環境整備により、教員が組織的で魅力ある仕事であることを意識され、教員を目指そうとする者が増加し、教員自身も志を高め、誇りを持って働くことができている。



「令和の日本型学校教育
育の実現を目指して~
全ての子供たちの個性
を引き出す、協働で
実現する、教職員の
実現~(答申)

実施概要

実施概要

- ①自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計
- ④「幼児教育コーディネータ養成講座」の実施
(幼稚園教諭2種免許状から1種免許状に上進する認定講座の開設)

<講座の流れ>

※募集要項記載

- (1) 受講申込
- (2) スタートアップオンライン講座受講 (1日, zoomにて)
- (3) 学習開始 (講習受講期間にて学習実施)
- (4) 修了認定試験受講
- (5) 履修証明プログラム申請
- (6) 履修証明書発送

幼児教育コーディネータ養成講座

履修証明プログラム制度

(1) 目的

「地域・学校における幼児教育の研修及び専門的指導」のための研修講座の計画立案実践能力、組織化、および地域課題解決への具体的対応力を身につけることにより、地域、学校における保幼こ小連携などの幼児教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ること

※ここでの「学校」とは、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校とする。

(2) コース名

幼児教育コーディネータ養成コース

履修証明プログラム

履修証明プログラム制度

(3) 趣旨・内容

本課程は、「地域・学校における幼児教育の研修及び専門的指導」のための研修講座の立案実践能力、組織化、及び地域課題解決への具体的対応力を身に付けることにより、地域・学校における幼児教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ることを目的とする。

※ここでの「学校」とは、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校とする。

(4) 対象者

次の①～③に該当する方

- ① 幼稚園教諭2種免許状所持者で、基礎資格となる免許状を取得した後、幼稚園（特別支援学校の幼稚部及び幼保連携型認定こども園を含む）における教員として在職年数が、12年以上の方。（((1)に該当する方につきましては、2種免許状を1種免許状に上進可能）
- ② 幼稚園教諭1種免許状所持者でスキルアップを目指す方。
- ③ 幼稚園教諭としてお勤めで、管理職・マネジメントの職務についている方。

履修証明プログラム

履修証明プログラム制度

(5) 総時間数

7科目 131時間 (履修証明プログラムは60時間以上必要)

(6) コース修了条件

各科目における試験またはレポートによる最終試験を全て合格

(7) 出願書類

- ① 履修証明プログラム履修証明申請用紙
- ② 写真 2枚

② キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化

幼児教育コーディネータに必要な資質能力

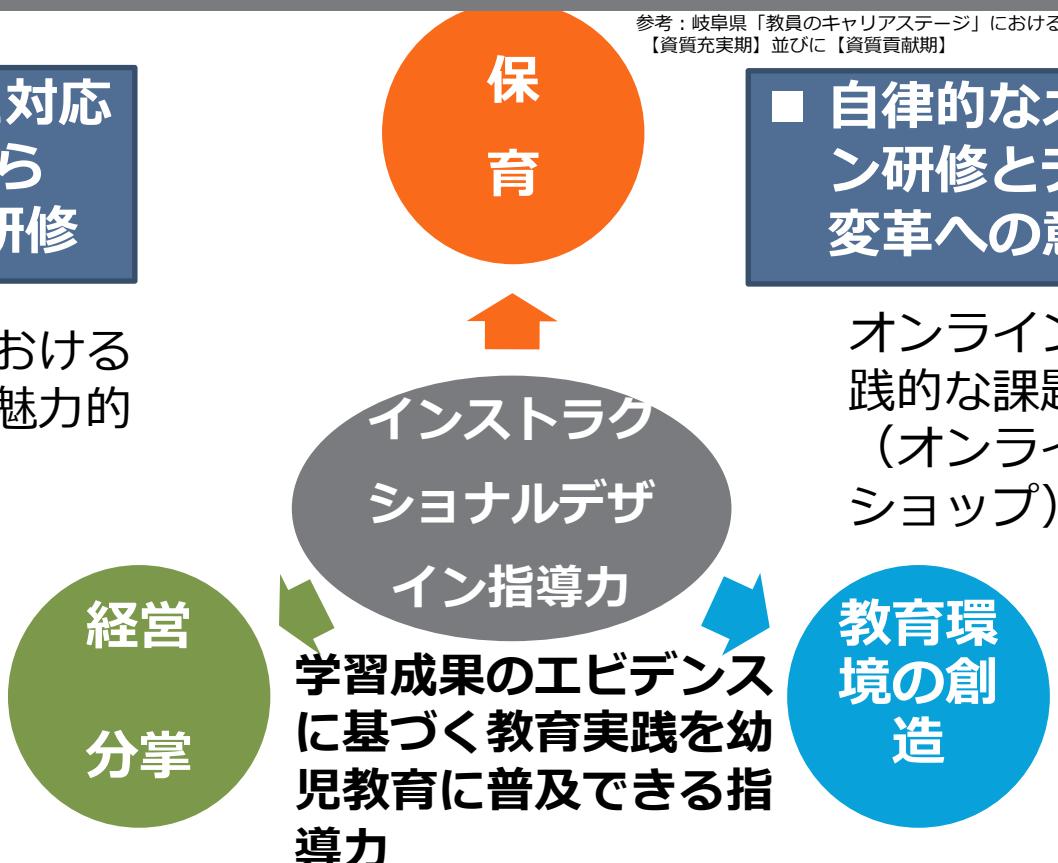
- 人と人、組織と組織をつなぐコーディネート能力
- 人々の納得を引き出すプレゼンテーション能力
- 人々の力を引き出し、主体的な参画を促すファシリテーション能力

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標【幼稚園等】
【資質充実期】並びに【資質貢献期】

■ デジタル変革に対応したskill upからSkill change研修

オンライン教育における効果的・効率的・魅力的な教育プログラム

■ 知識・技能から資質能力への転換



■ 自律的なオンライン研修とデジタル変革への意識改革

オンライン教育での実践的な課題解決型授業
(オンラインワークショップ)

■ 保幼ご小連携手法の確立

※ インストラクショナルデザイン指導力：学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を幼稚園教育に普及できる指導力。

※ インストラクショナルデザインとは、「何を（What）できるようにするのか？」を明確にしたうえで、「どうやって（How）できるようになるのか」をルールに基づいて体系的に考えることにより、効果的・効率的・魅力的な教育プログラムを作成するための方法論。

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

「岐阜県『教員のキャリアステージ』における資質の向上に関する指標」

■ 教員のキャリアステージ

「基礎形成期」「資質向上期」「資質充実期」「資質貢献期」

■ 「岐阜県『教員のキャリアステージ』における資質の向上に関する指標」

- A) 保育・・・保育構想, 保育実践, 評価改善
- B) 教育環境の創造・・・幼児理解, 生活の展開, 発達の課題
- C) 経営・分掌・・・学級・学年・園経営, 連携・協働, 危機管理
- D) 特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応
- E) ICTや情報・教育データの利活用

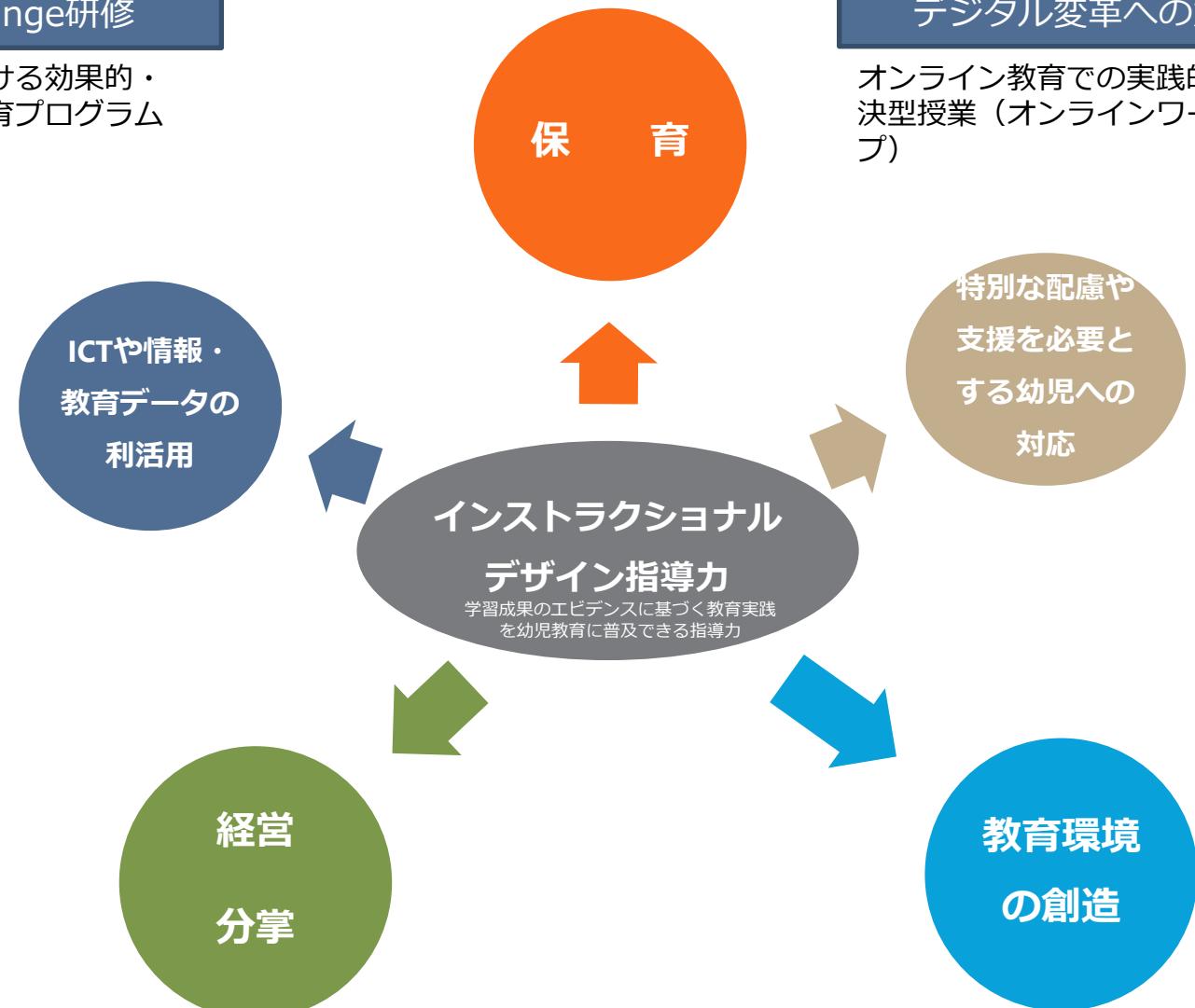
キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化

- デジタル変革に対応したskill upからSkill change研修

オンライン教育における効果的・効率的・魅力的な教育プログラム

- 自律的なオンライン研修とデジタル変革への意識改革

オンライン教育での実践的な課題解決型授業（オンラインワークショップ）



幼児教育コーディネータの資質・能力の構造化

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標 改訂版【幼稚園等】における【資質充実期】並びに【資質貢献期】（令和3年10月）

資質・能力カテゴリー		幼児教育コーディネータに必要な資質・能力(案)
保育	保育構想	(1)自園の課題、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた指導計画を作成し、他の教員に広めていくことができる。 (2)幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。 (3)各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。 (4)自園の課題を踏まえ人格形成の基礎を培う実践について、他の教員に伝えたり、適切に助言を行ったりすることができる。 (5)自園の保育力向上に向けた取組の課題を明らかにし、指導計画等の改善を行うことができる。 (6)他の教員に対して、保育実践の評価を生かした指導改善について、適切に助言を行うことができる。
	保育実践	
	評価改善	
教育環境の創造	幼児理解	(1)様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。 (2)継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。 (3)関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。 (4)幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体制を整えるとともに問題の未然防止の取組を実践することができる。 (5)幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。 (6)幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。
	生活の展開	
	発達の課題	
経営分掌	学級・学年・園経営	(1)自園の分掌全般に関して理解を深め、組織を生かしながら各分掌を推進することができる。 (2)自園の教育目標具現に向けて、園の組織間の連絡・調整を行うとともに若手教員の育成をすることができる。 (3)他の教員等の取組状況を把握し、連絡・調整をしながら対応することができる。 (4)広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。 (5)関係機関や保護者・地域等と連携し、事故等の未然防止や発生時における迅速な対応を行うことができる。 (6)自園を取り巻く環境について、家庭・地域・関係機関との協力体制を整えるとともに、適切に対応することができる。
	連携・協働	
	危機管理	
特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応		(1)全校的な支援の充実に向け、職員の連携による指導の体制を整え、組織的・持続的な支援のために主体的に働きかけることができる。 (2)幼児児童生徒への一貫した教育支援を目指し、保護者や地域、関係機関と連携した支援体制の構築を推進することができる。
ICTや情報・教育データの利活用		(1)自からのICT活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。 (2)自園のICTや情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。
インストラクショナルデザイン指導力	インストラクショナルデザイン	(1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
	ワークショップ	(6)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現にための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。
教育リソース		

※ インストラクショナルデザイン指導力：学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を幼児教育に普及できる指導力。

※ インストラクショナルデザインとは、「何を（What）できるようにするのか？」を明確にしたうえで、「どうやって（How）できるようにする　　のか」をルールに基づいて体系的に考えることにより、効果的・効率的・魅力的な教育プログラムを作成するための方法論。

講座の基本的方針（アメリカの教育学者M.S.ノールズ）参照

1. 学習者自ら学習計画を立て、自ら評価できること。
2. 自身のこれまでの経験が学習の基盤となること。
3. 学習の動機が日常生活や普段の仕事にあること。
4. 学ぶことが目的のではなく、問題解決が目的であること。

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

科目名	幼児教育コーディネータに必要な資質・能力
遊びと文化Ⅰ	(1) 幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。 (2) 各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。 (3) 様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。 (4) 幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。
遊びと文化Ⅱ	(1) 幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。 (2) 各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。 (3) 様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。 (4) 幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。 (5) 幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。
保育内容 (表現)	(1) 幼稚園教育要領領域「表現」を幼児の発達段階に即して理解することができる。 (2) 幼児の個性に即して適切な支援をすることができる。 (3) 幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を見通した造形教育を計画することができる。 (4) 創造的に学ぶ（クリエイティブ・ラーニング）教育について事例を挙げて説明できる。 (5) 全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現にための教育リソースの活用について事例を挙げて説明できる。 (6) 個々の幼児のみならず、園全体のことを考えたうえで課題意識を表象化して、研修課題をテーマを絞り込むことができる。
教師論	(1) 教育の先駆者の教育思想や教育方法を踏まえた教師像をもつことができる。 (2) 現代の教育方法について理解し、目指す教育方法を共有化できる。 (3) 教育目標の実現に向けた教育の枠組みの考え方を身に付けることができる。 (4) 児童中心主義の考え方の原点を学ぶことができる。 (5) 倉橋惣三の保育論を通して、幼児教育の「不易」について理解することができる。 (6) 21世紀型保育の在り方の重要な視点について理解することができる。 (7) 野村芳兵衛の保育論を通して、発達段階に即した保育の在り方にについて理解することができる。 (8) 幼稚園教育要領等のねらいを達成し内容を適切に指導する際の重要な点について理解することができる。 (9) 広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。 (10) 自園を取り巻く環境について、家庭・地域・関係機関との協力体制を整えるとともに、適切に対応することができる。

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

科目名	幼児教育コーディネータに必要な資質・能力
教育の方法・技術	(1) 自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2) インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。 (3) e-Learningにより学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4) 研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5) 研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。 (6) 全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現にための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。 (7) 自からのICT活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。 (8) 自園のICTや情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。
幼児理解	(1) 様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。 (2) 継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。 (3) 関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。 (4) 幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体制を整えるとともに問題の未然防止の取組を実践することができる。 (5) 幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。 (6) 幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。 (7) 研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。 (8) 幼児の理解を、エビデンスベースで理解することができる。 (9) 主観的解釈から脱却し、他者の解釈を聞くことができる。
教育相談 I	(1) 様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。 (2) 継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。 (3) 関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。 (4) 幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体勢を整えるとともに問題の未然防止の取り組みを実践することができる。 (5) 幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の基点となって実践することができる。

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力に関する調査

「幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラムの開発・試行」での基礎資料とする目的としてアンケートを企画・実施。受講生の受講前の資質・能力の実態を把握した。受講後に再度同じ設問にて調査を実施し、変容を捉える。

○実施時期：前-令和4年7・9月
後-令和4年12～令和5年1月

○実施対象：受講生34名（前-回答33名、後-20名）

○実施方法：Web方式

■ 幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

- A) 保育・・・保育構想、保育実践、評価改善
- B) 教育環境の創造・・・幼児理解、生活の展開、発達の課題
- C) 経営・分掌・・・学級・学年・園経営、連携・協働、危機管理
- D) 特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応
- E) ICTや情報・教育データの利活用

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力に関する調査

A. 保育（保育構想・保育実践・評価改善）

- A1 自園の課題、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた指導計画を作成し、他の教員に広めていくことができる。
- A2 幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。
- A3 各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。
- A4 自園の課題を踏まえ人格形成の基礎を培う実践について、他の教員に伝えたり、適切に助言を行ったりすることができる。
- A5 自園の保育力向上に向けた取組の課題を明らかにし、指導計画等の改善を行うことができる。
- A6 他の教員に対して、保育実践の評価を生かした指導改善について、適切に助言を行うことができる。

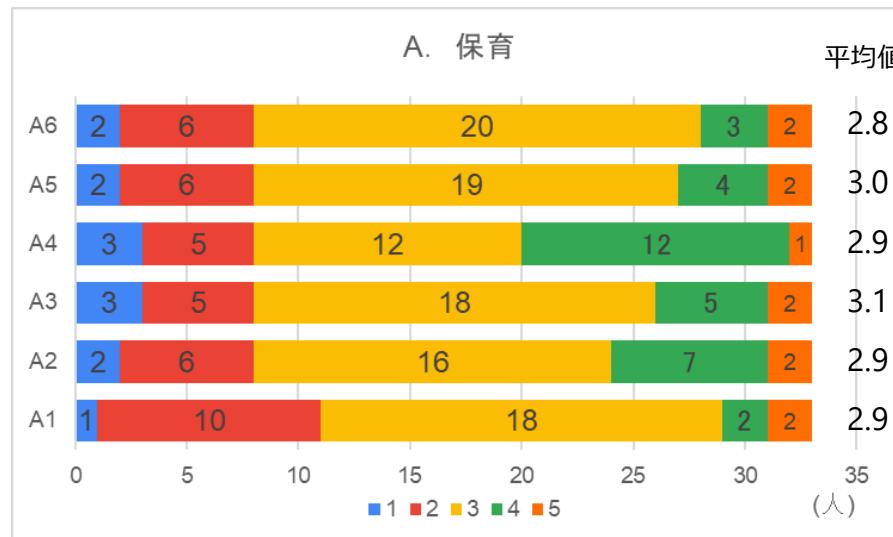


図1. 保育に関する資質・能力（受講前）

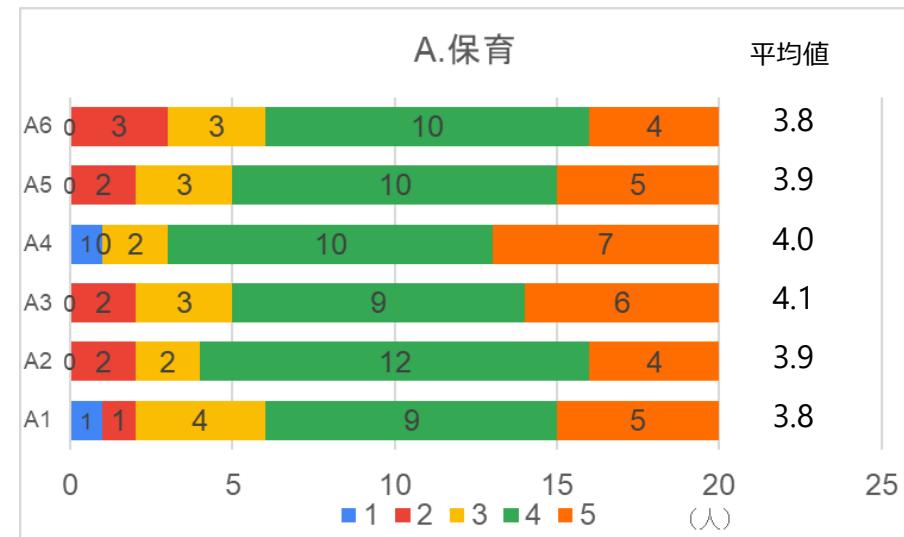


図1. 保育に関する資質・能力（受講後）

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力に関する調査

B. 教育環境の創造（幼児理解・生活の展開・発達の課題）

- B1 様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。
- B2 継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。
- B3 関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。
- B4 幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体制を整えるとともに問題の未然防止の取組を実践することができる。
- B5 幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。
- B6 幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。

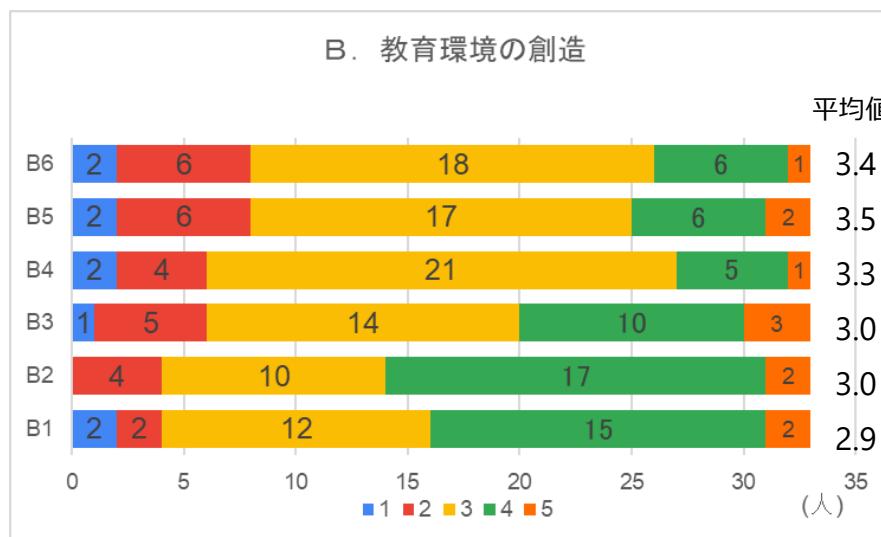


図2. 教育環境の創造に関する資質・能力（受講前）

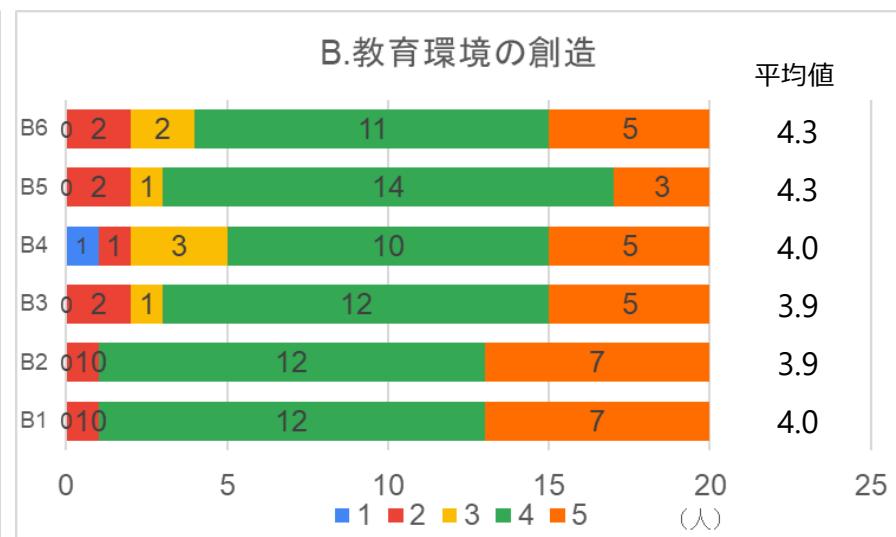


図2. 教育環境の創造に関する資質・能力（受講後）

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力に関する調査

C. 経営分掌（学級・学年・園経営・連携・協働・危機管理）

- C1 自園の分掌全般に関して理解を深め、組織を生かしながら各分掌を推進することができる。
- C2 自園の教育目標具現に向けて、園の組織間の連絡・調整を行うとともに若手教員の育成をすることができる。
- C3 他の教員等の取組状況を把握し、連絡・調整をしながら対応することができる。
- C4 広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。
- C5 関係機関や保護者・地域等と連携し、事故等の未然防止や発生時における迅速な対応を行うことができる。
- C6 自園を取り巻く環境について、家庭・地域・関係機関との協力体制を整えるとともに、適切に対応することができる。

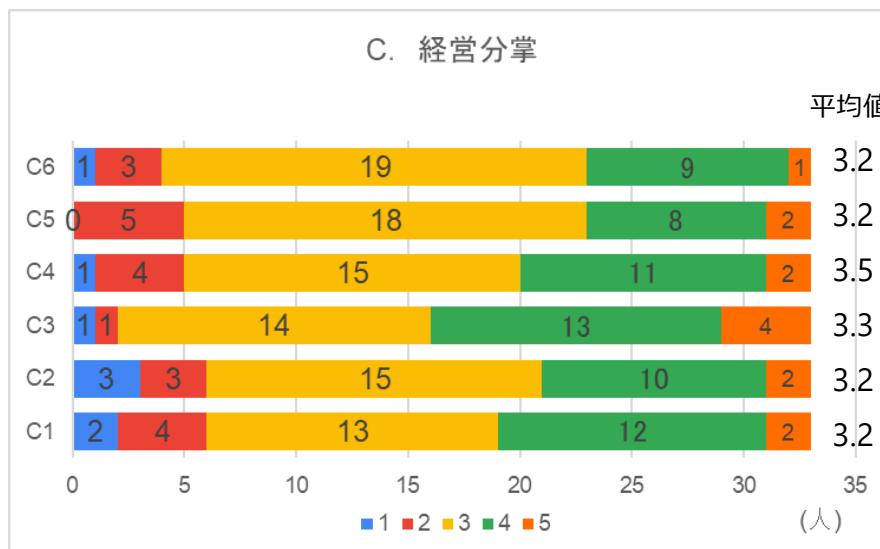


図3. 経営分掌に関する資質・能力（受講前）

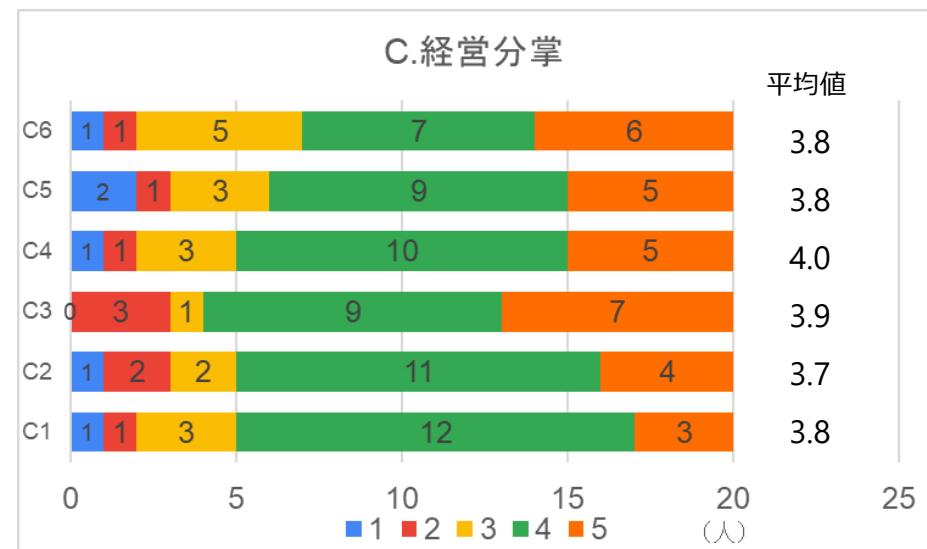


図3. 経営分掌に関する資質・能力（受講後）

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力に関する調査

D. 特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応

- D1 全校的な支援の充実に向け、職員の連携による指導の体制を整え、組織的・持続的な支援のために主体的に働きかけることができる。
- D2 幼児児童生徒への一貫した教育支援を目指し、保護者や地域、関係機関と連携した支援体制の構築を推進することができる。

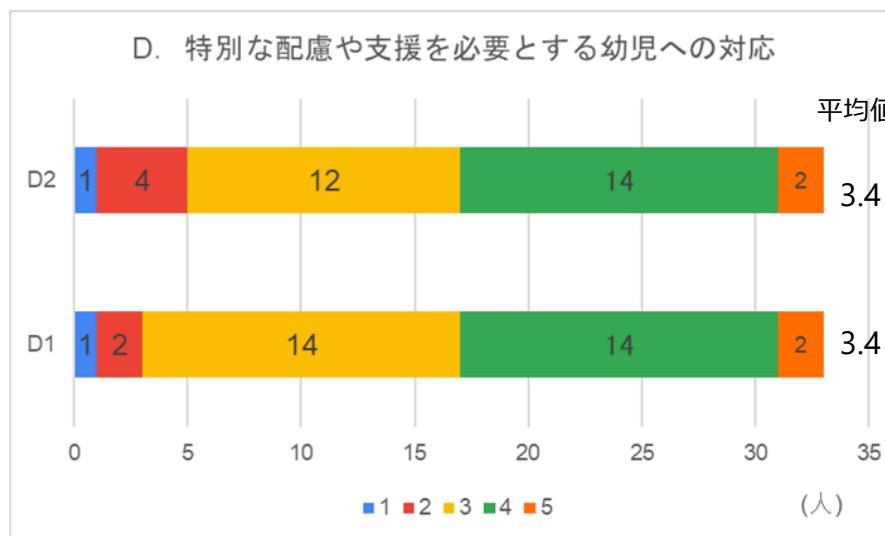


図4. 教育環境の創造に関する資質・能力（受講前）

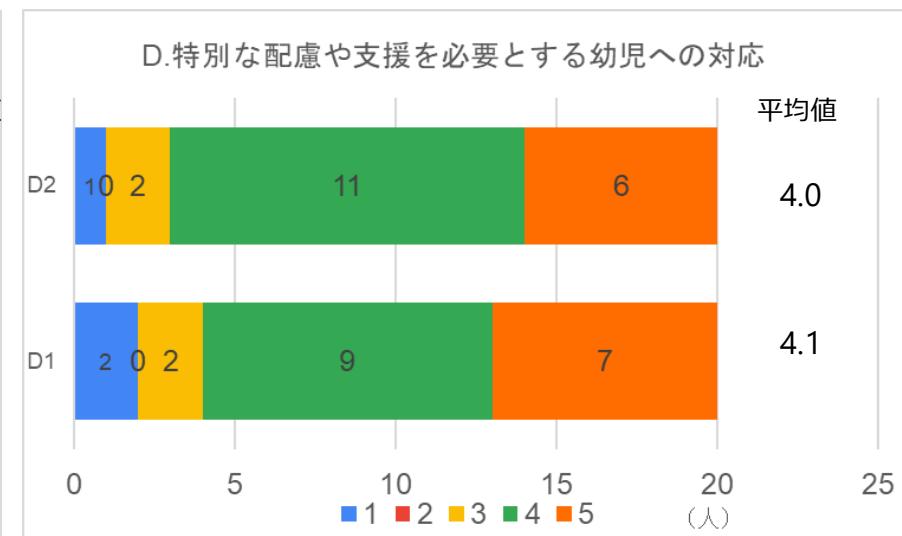


図4. 教育環境の創造に関する資質・能力（受講後）

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力に関する調査

E. ICTや情報・教育データの利活用

E1 自からのICT活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。

E2 自園のICTや情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。

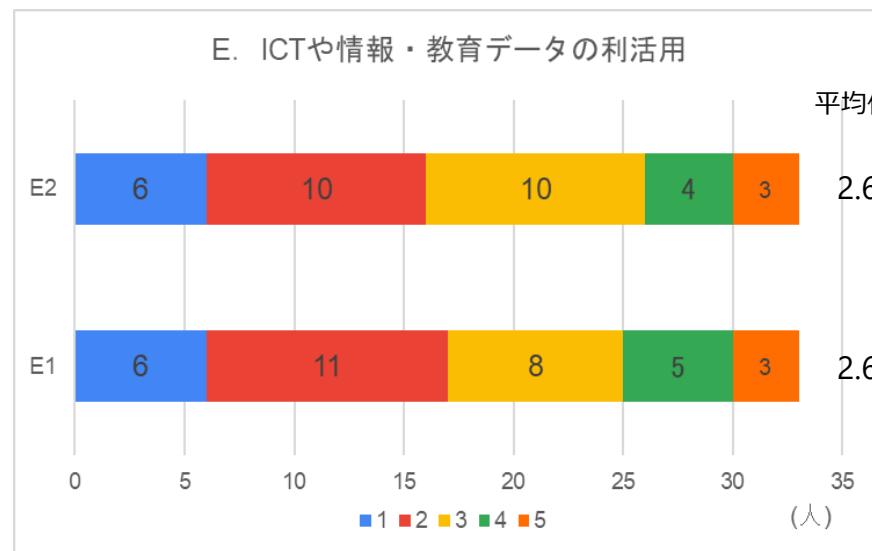


図5. ICT・情報・教育データに関する資質・能力（受講前）

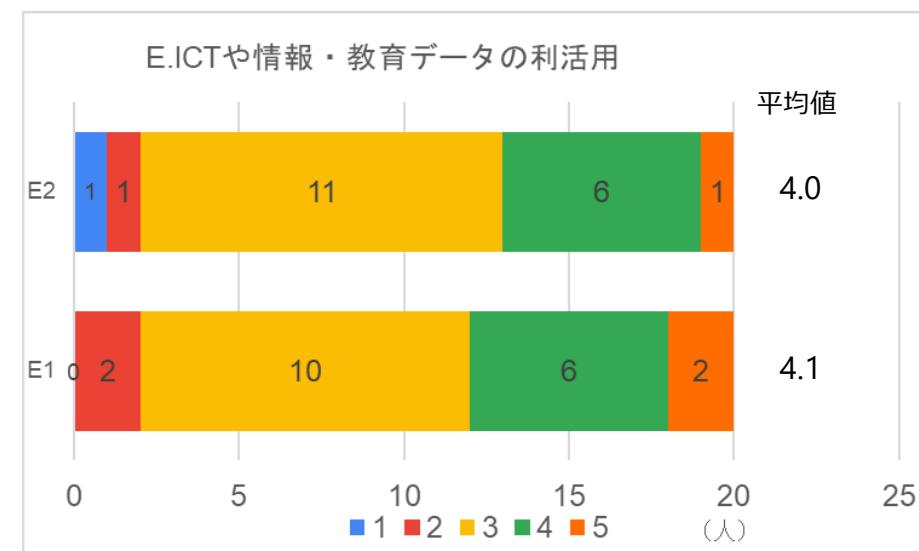


図5. ICT・情報・教育データに関する資質・能力（受講後）

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

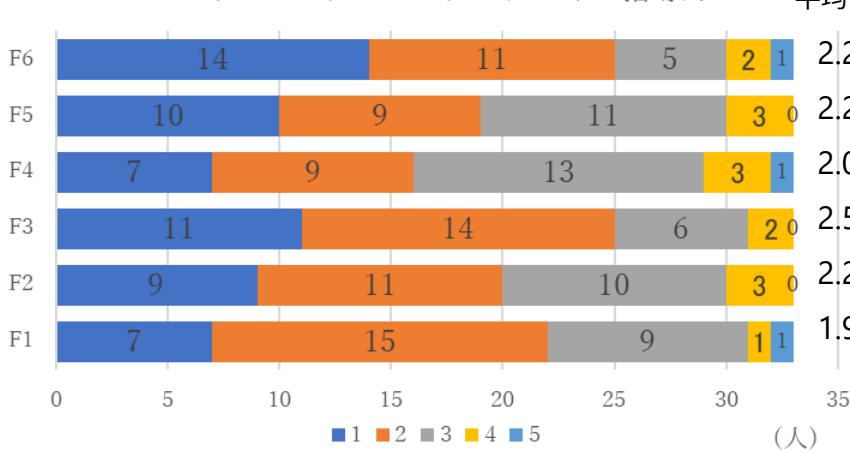
幼児教育コーディネータに必要な資質・能力に関する調査

F. インストラクショナルデザイン指導力

(インストラクショナルデザイン・研修成果の評価・ワークショップ・教育リソース)

F1 自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。
F2 インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。
F3 e-Learningにより学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。
F4 研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。
F5 研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
F6 全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現にための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。

F. インストラクショナルデザイン指導力 平均値



F. インストラクショナルデザイン指導力 平均値

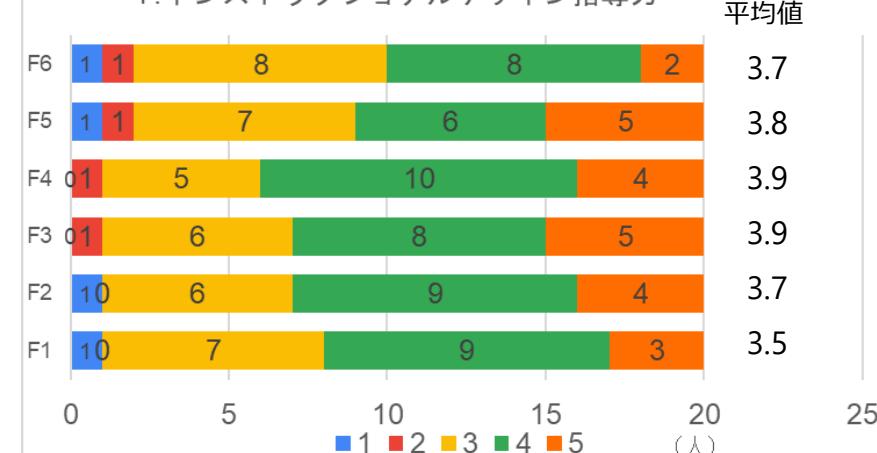
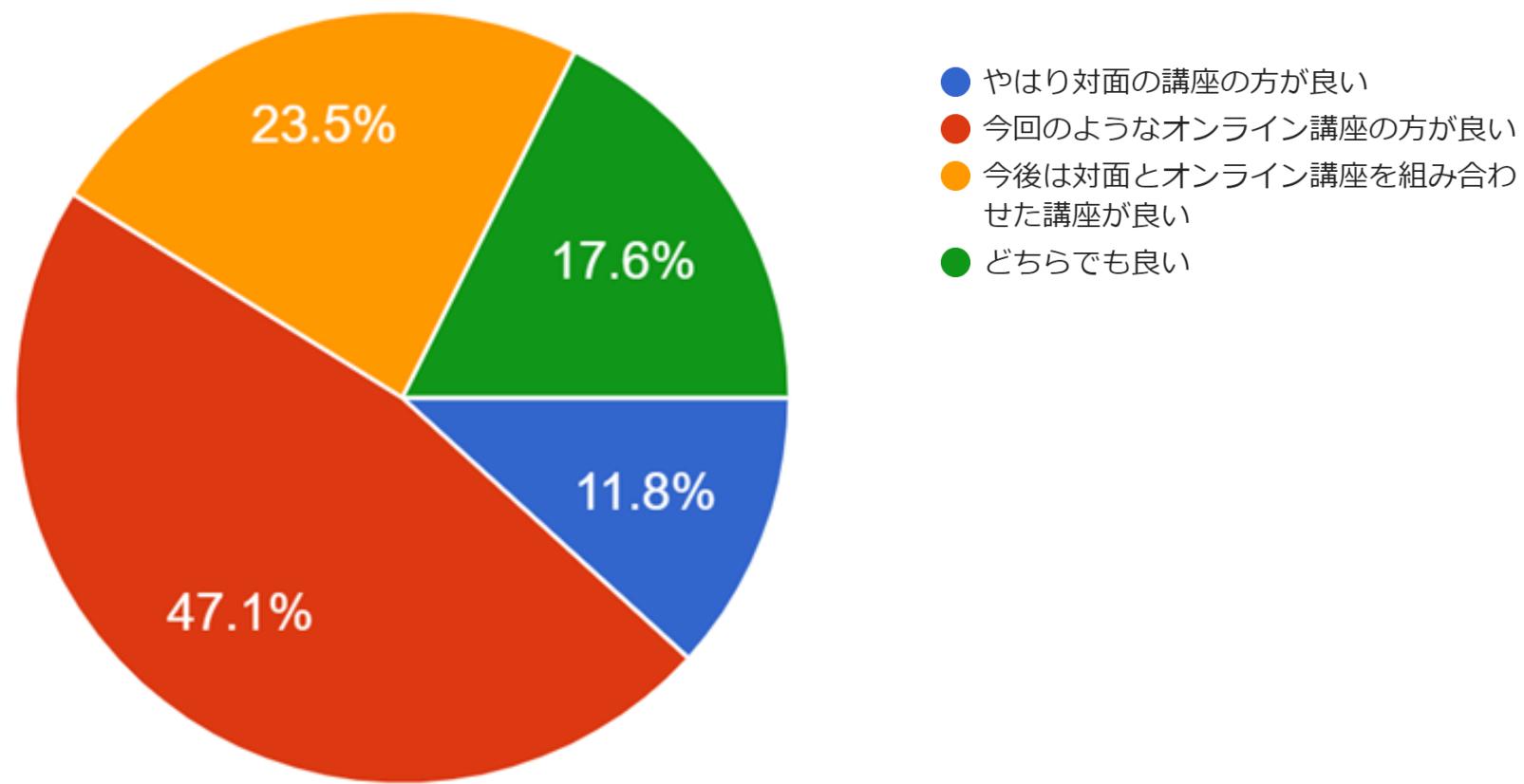


図6. インストラクショナルデザイン指導力に関する資質・能力
(受講前)

図6. インストラクショナルデザイン指導力に関する資質・能力
(受講後)

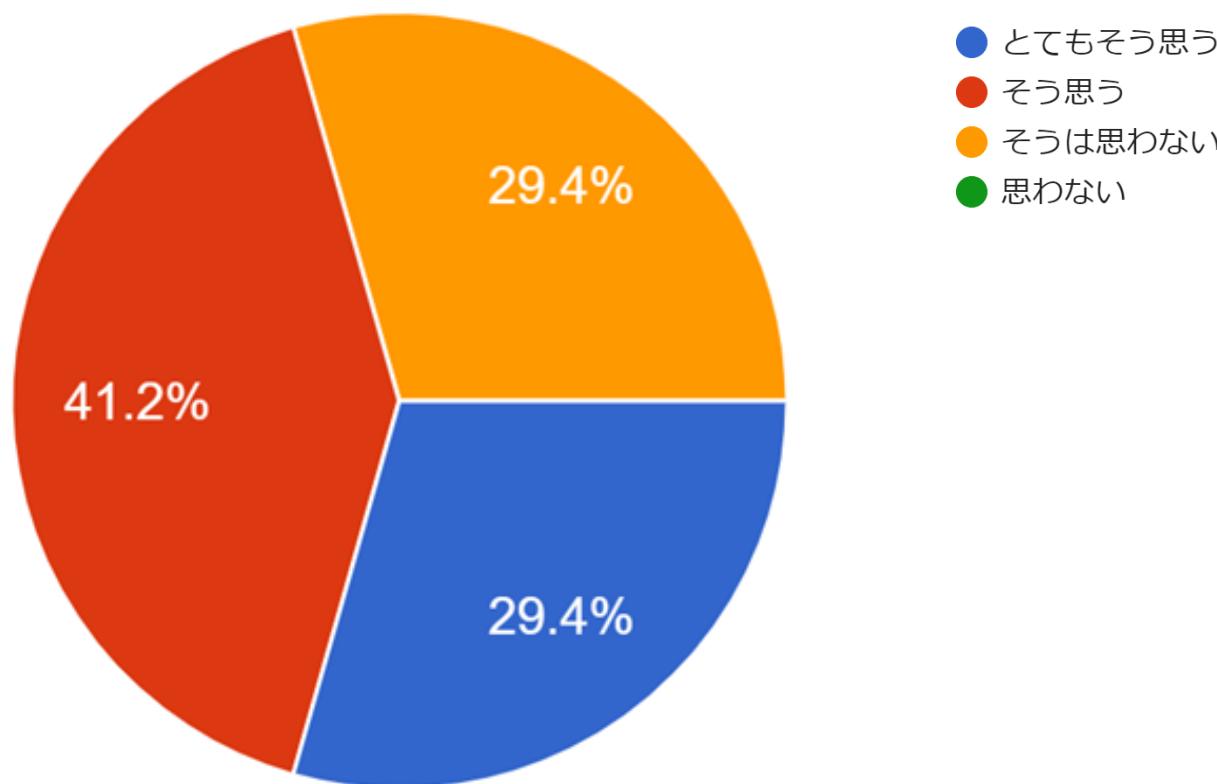
令和4年度 幼児教育における人材・キャリアアップ支援事業
幼児教育コーディネータ学習方法

(1) オンライン講座を初めて参加して、今後の講座の方法について
17件の回答



令和4年度 幼児教育における人材・キャリアアップ支援事業
幼児教育コーディネータ学習方法

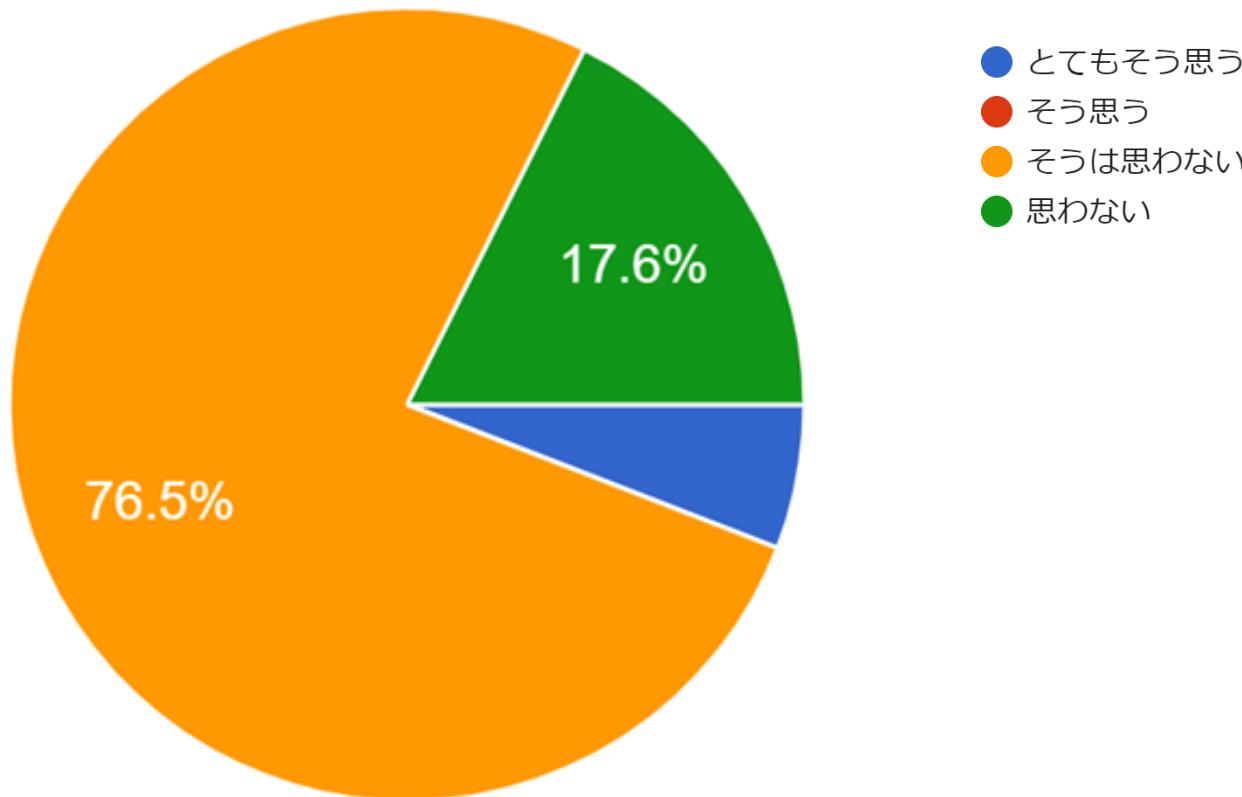
(3) オンライン講座は対面の講座と比べて集中して話を聞くことができたと思いますか?
17件の回答



令和4年度 幼児教育における人材・キャリアアップ支援事業
幼児教育コーディネータ学習方法

(4) オンライン講座は対面の講座と比べて理解度が低くなると思いますか？

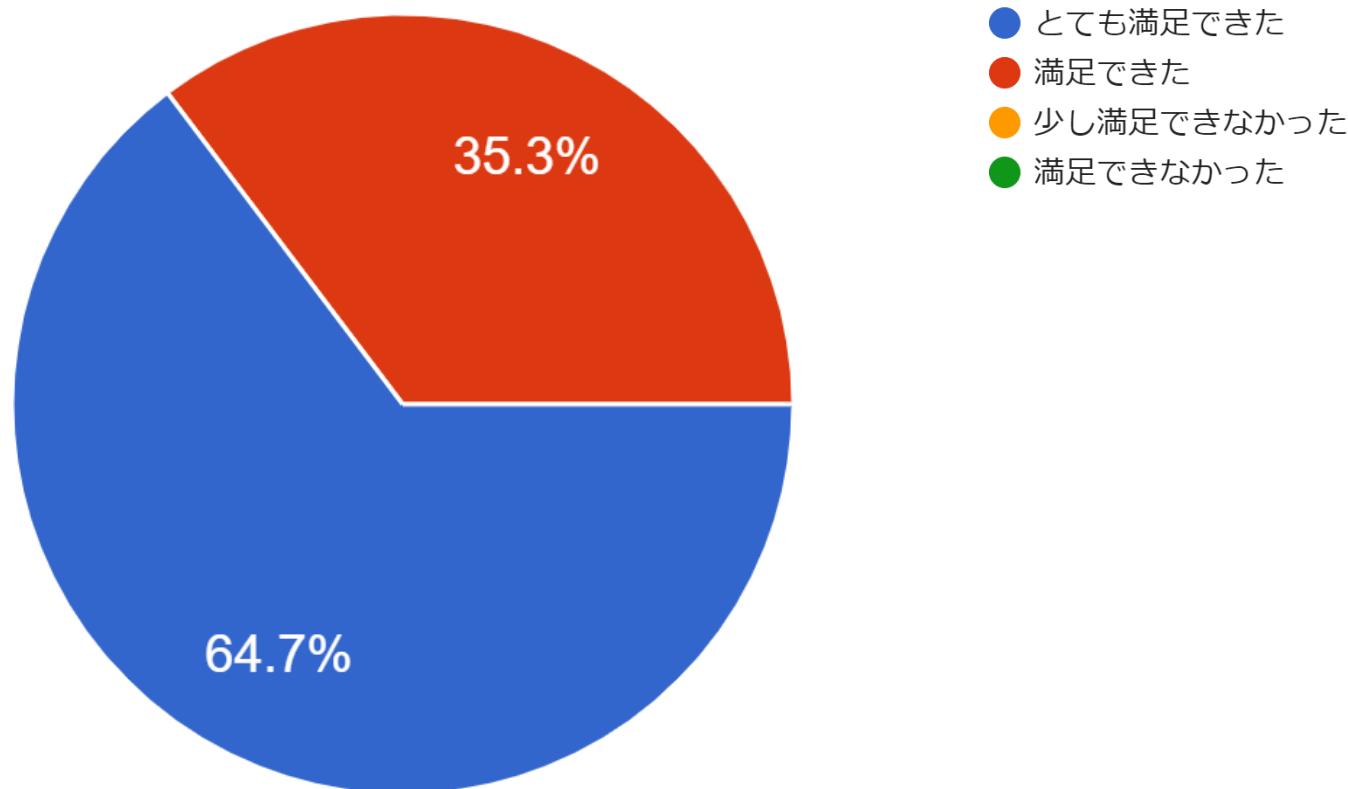
17件の回答



令和4年度 幼児教育における人材・キャリアアップ支援事業
幼児教育コーディネータ学習方法

(5) 今回のオンライン講座に参加して満足出来ましたか？

17件の回答



成果

【成果】

- 幼児教育コーディネータの養成カリキュラム構造化と内容の精選

⇒・幼児教育コーディネータに求められる資質能力の向上を図ることができた

= **・カリキュラムの構造化と内容の精選の妥当性が認められた**

- 自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計

⇒・学習の満足度・理解度は好評

= **・ハイブリッド型の学習方法が認められた**

令和5年度の実施状況

＜人材育成の実施＞

■ 幼児教育コーディネータ

- ・ 7科目の講座の開設

遊びと文化Ⅰ・Ⅱ, 保育内容(表現), 教師論, 教育の方法・技術, 幼児理解・教育相談Ⅰ

■ 小中連携教育コーディネータ

- ・ 4科目の講座の開設

生徒指導論, 初等教科教育法(理科)・(音楽)・教育相談Ⅱ

※開設科目は、現時点での予定であり、変更の可能性もあります

文部科学省委託事業

令和4年度 幼児教育における人材確保・キャリアアップ支援事業

令和5年度 大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業

幼稚園教諭の資質向上を目指すキャリアステージ における講座の在り方の研究Ⅱ －幼児教育コーディネータの資質能力の検討－

齋藤陽子・久世均・眞喜志悦子(岐阜女子大学)

ご清聴ありがとうございました
ご指導よろしくお願ひします

岐阜女子大学